

建築協會  
17.3.2  
交付

# 滿洲建築雜誌

第二十二卷 第二號



科學技術聯合部會の結成と本協會の翼賛  
空襲被害率算定に就ての一考察  
ベチカに關する研究（2）  
鴨綠江産テウセンマツ、テウセンモミ、テ  
ウセンカラマツの強度試験報告（2）

社 法 團 入 滿 洲 建 築 協 會



高礮土質耐火煉瓦 SK#3G 以上

沙托外質耐火煉瓦 #S.K 30-35

耐酸煉瓦各種

鋪道煉瓦各種

專賣特許 鐵筋煉瓦各種

空洞煉瓦各種

機械製煉瓦各種

# 營口窯業株式會社

大連工場 大連市春楸區三春楸一番地  
電話(4)1097·(4)2202 (4)2836

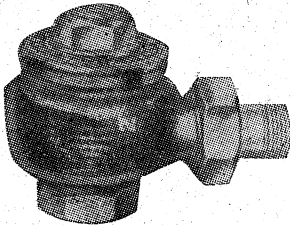
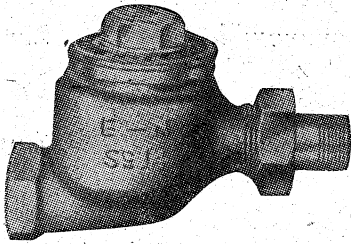
新京工場 新京特別市長春區東安屯  
電話(3)4708

# B.N

## 株式會社 中北製作所

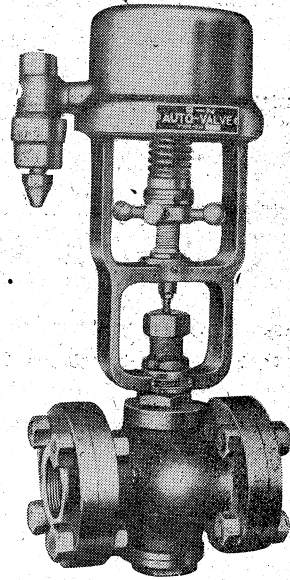
放器 熱用 スチームトラップ

自 動 排 水 式 減 壓 弁  
不 凍



BN 914 號型

スチーム トラップ



BN 421 號型

不凍式減壓弁

温度・湿度・壓力・水準により操  
作する各種自動スイッチ・バルブ  
八十餘種製作 .....

### 型 錄 進 呈

本社・工場 大阪市旭區蒲生町三丁目 電話堀川2713・2714・2715・5508番  
東京營業所 東京市芝區金杉町四ノ二 電話三田 1510番

滿洲代理店 株式會社 安宅商會機械部

奉天 瀋陽 通遼 二道 都 埠  
京 特 市 八 條 通 三 八  
新 大 運 山 縣 通 東 拓 埠

(技術員常時駐在し技術上の御相談に應じて居ります)



# 科學技術聯合部會の結成と本協會の翼賛

岡 大 路

輓近の新體制として現はれて來た上意下達、民意上達、聯絡統制等々の問題は要するに國家官民の總力を擧げて高度國防國家の建設に邁進せんとするものであつて、第二次近衛内閣によつて提唱されたる大政翼賛、臣道實踐の運動は實に其の黎明の曉鐘として轟き渡り、政治、實業、教育等の各機關萬般に亘り官民一齊に其の體制を整へるに至つたのである。

我が滿洲に於ても其の意を酌み科學技術の大同團結を謀り大乘の見地より翼賛運動の實を擧げんとする議が識者の間に澎湃として捲き起り、技術協會々長貝瀨氏は若し此の問題が軌道に乗るならば多年に亘りて滿洲學術聯合會を指導し來たれる技術協會を解散するも辭せずとの決意をさへ示された。然るに科學技術の各般に亘りて其れを統合することは決して一朝一夕の業にあらず、且つ又其の運用の點に就て充分の考慮を廻らさなければならぬのであつて、年餘に及ぶ紆餘曲折を経、遂に滿洲國協和會の一翼として科學技術聯合部會の結成を見るに至つたのである。

科學技術聯合部會の要綱及び内容組織に就ては別に本誌に録してあるから此處には贅言を費さず、只だ本會との關係に就て一言を加へるならば、科學技術聯合部會の職域産業別によるものを其の部會となし、これは滿洲國と關東州とでは行政的の相違もあるので別個に取り扱ふ可きであるが、其の職能、學術別によるものはこれを研究部會として取り扱つたのである。凡そ學術研究の問題は勿論行政的、地域的に區別さる可きものではないのであつて、當局に於ても其處に見る所あり、研究部會に對しては關滿の科學技術一體となつて翼賛運動に参加して可なりとの意向を表示された。茲に於て本協會は二十年に亘る輝かしき傳統を其の儘に持續して科學技術聯合部會の建設研究部會に參割せんとするものであつて、只だ其の間には會員種別の整理、事業遂行の方法、地方支部變改等の問題を檢討することが残されるけれども、事務所の所在も其の儘とし雑誌の發行も從來通り大連に於て行はれる。斯くして本協會定款第二條の示す「滿洲に於ける建築界の健實なる伸展を期する」の意を更に一段と強調し、關滿の地域的意識を超越して協調翼賛の實を擧げ、滿洲土木學會と相携へて建設研究部門の機能を發揮せしむることに努めんとするものである。

大東亞戰爭は實に神速果敢、月餘にして香港、比島を攻略し星港の陥落も目睫の間に迫りつつあり、南洋諸島より倨傲なる米英蘭の勢力を排除し、東亞の諸民族自らの力による新秩序の建設と云ふ世界史上劃期的の偉業に向つて躍進せんとする時、南方は南方として更に北方は滿蒙大陸の地に於ても科學技術の飛躍的發展を試むることではなければなるまい。敢えて本協會員諸君の科學技術聯合部會に對する關心を呼び協力を寄せられんことを希ふ次第である。